

「伊藤三喜庵の世界」展

銀座・和光ホールで

善光寺の役員であり、建築家でありながら、現代の感性で独自の画境を開く画家として注目されている伊藤三喜庵氏が三回目の個展「伊藤三喜庵の世界―伝統に現代の感性を込めて―」を十二月二十四日から三十日まで和光ホールで開催。日本の仏像を描いた水墨画五十余点に加えて、読売新聞に連載された津本陽氏の小説「椿と花水木」の挿絵原画を展示しました。

伊藤氏は今年八十歳。絵画は油絵から手がけ、十六歳から出展。日本大学工学部建築学科を卒業し、伊藤喜三郎建築研究所を設立して建築家として活躍。四十七歳で水墨画に転じ、日本南画院展に出品。また日本自由画壇に参画し、同

院の「南画院賞」「文部大臣賞」を受賞。文芸春秋社などの出版物の挿絵も多く手がけています。個展は、これまでに一九八九年と九一年の二回、いずれも和光ホールで開催。「その中に哲学や美学を見いだす」と仏像を描くことも多く、今回は仏画を中心に出展。伊藤氏は現在、日本自由画壇理事長、日本南画院常務理事、社団法人東京都建築事務所協会名誉会長を務めておられます。

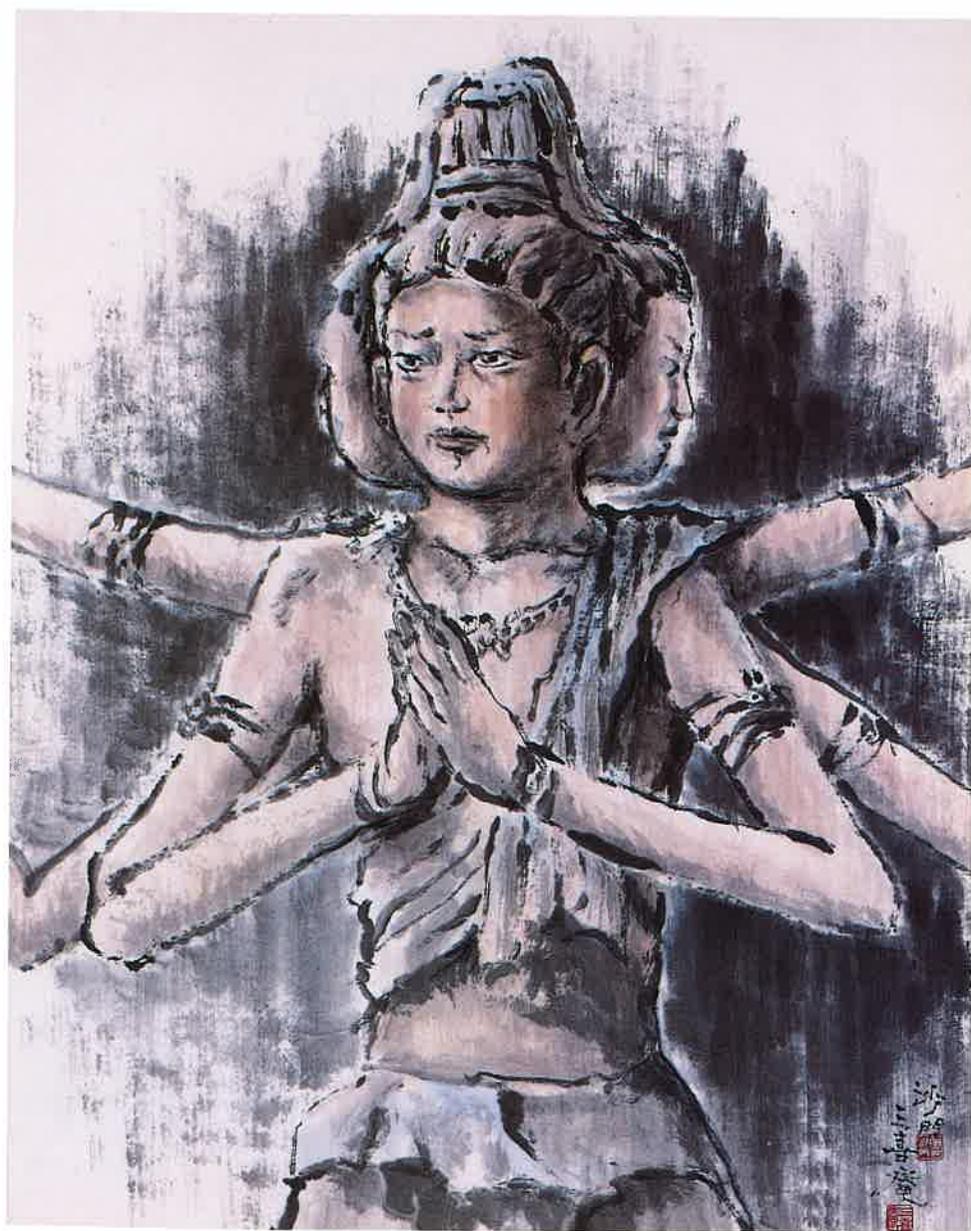
尚、四月二十六日より一週間、横浜のトイコギヤラリーにて「ジョン万治郎の生涯」挿し絵個展を開催します。

伊藤三喜庵の世界

善光寺収蔵作品



中国のスケッチ



阿修羅



积迦三尊仏

『絵本 ジョン万治郎の生涯』

伊藤三喜庵 画・解説

(株式会社求龍堂 刊)

